

■ 専門科目

建築・環境デザイン

都市環境デザイン論

2025年度開講・選択・2単位

Theory of Urban Environments Design

担当教員 長野真紀、山之内誠、瀬能徹、佐野浩三

授業の目的と到達目標（学修成果）

地図や地誌類、統計データ、空間実測等にもとづく分析手法を学び、都市及びその周縁の空間の成り立ちを総合的に理解する力をつける。また、日本と西欧の生活文化の特徴や商空間とデザインの関係性について学び、生活環境の課題を捉えられるようになる。

授業計画の概要

グローバリゼーションが進む一方で、空間の固有性を継承強化する持続可能な都市のあり方が問われている。そのためには、デザインやプランニングのよりどころとして、自然環境、歴史、生活、文化から空間の成り立ちを把握し分析するとともに、その固有性を読み解く必要がある。本講義では、場所への意識や思考力を高めていくことを目的に、人間生活を包括する環境と物の見方や生活行動について考察する。関西圏の都市部や農村集落、住宅、商業施設など、スケールや成立背景の異なるフィールドを設定し、講義と実践を通して暮らしのかたちを読み解いていく。

地域再生デザイン

後期・選択・2単位

Regional Renovation Design

担当教員 長濱伸貴、朴秀日

履修制限等

環境・空間デザインについて、深い関心と基礎的な知識を有していること。

授業の目的と到達目標（学修成果）

地域再生における今日的な課題を深く理解することにより、社会的、公益的な視点を持ちながら未来を見据えた環境デザインを行う能力を身につける。

授業計画の概要

持続可能な地域社会の再構築に向けて、ライフスタイルとその場所の新しいあり方としての地域空間再生計画を提案する。主にアーバンデザイン、ランドスケープデザイン、建築デザインを中心とする芸術工学分野の学際的課題として捉え、その実現に向けて、都市環境から建築空間までの空間スケールにわたって、自然環境・社会環境とデザインコンセプトとの関係、デザインプロセスの構築などについて考察する。学生相互のディスカッション、グループによるフィールドリサーチ、現地ワークショップ等を通して、具体的な提案を授業の成果物としてとりまとめる。

建築空間デザイン

2025年度開講・選択・4単位

Architectural Space Design

担当教員 畑友洋、萬田隆、荻原廣高

授業の目的と到達目標（学修成果）

- ・単体の建物の設計に留まらず、周囲の環境や敷地条件を読み取った上での総合的なコンセプトメイキング、空間の創造を行うことができる。
- ・具体的課題において構造や環境・設備の計画も並行することにより実践的な設計を行うことができる。

授業計画の概要

建築やリノベーションの計画デザインを実践的に学ぶ。具体的提案を求める計画地を設定し、その計画地が位置する地域の調査にもとづき歴史、景観、安全、相隣環境など計画地に求められる計画条件を把握するとともに、企画コンセプトの立案からデザインプロセスを実践的に学ぶことにより、計画設計実務に求められる基本を習得する。